



- ・皮膚科の診療体制
- ・災害時拠点病院として
- ・万一のためにお薬手帳を持ちましょう
- ・嬉しい嬉しい1年生 入学おめでとうございます
- ・タリーズコーヒーがオープン
- ・市民公開講座のお知らせ

皮膚科の診療体制

～春日井市の皮膚トラブルは、すべておまかせを！～

皮膚科医長 古橋 卓也

平成28年4月から、古橋卓也医長、小田隆夫医師の常勤2名にて皮膚科新体制となりました。長らく非常勤体制で担当医が代わることも多く、スムーズな診療が提供できなかった部分があったかもしれませんが、今後は春日井市の皮膚トラブルすべてに対応していきますので、何でもご相談ください。

多種多様な皮膚トラブルは、性別、年齢など、それぞれ個々に感じ方も違います。その患者さんの「困っていること」について、少しでも力になれるように真摯に向き合い、病気に対し共に立ち向かうパートナーになれるように、努めてまいります。

かかりつけの先生のところでも長く通院が必要な疾患でも、その病気のこと、どんなことに注意すればいいかなどをしっかりとお話させていただきます。安定すればかかりつけのクリニックへ逆紹介させていただきますが、悪化すればすぐに当院にご紹介いただくことで、患者さんがどのような状況でも、春日井市にいれば安心だと思える地域連携を充実させていきたいと考えています。



災害拠点病院として

救命救急センター部長兼救急部長

愛知県災害医療コーディネーター・日本DMAT隊員

医師 近藤 圭太

災害拠点病院とは、地震・津波・台風等の災害発生時や人的災害発生時に災害医療を行う医療機関を支援する病院のことで、原則、都道府県に1か所整備される基幹災害拠点病院、2次医療圏に1か所整備される地域中核災害拠点病院及び地域災害拠点病院に分類されます。

当院は、平成24年に地域災害拠点病院、平成27年10月に救命救急センターの指定を受けたことに伴い、地域中核災害拠点病院の指定を受けています。

災害拠点病院では、24時間体制で災害に備え、災害時には被災地の患者の受入れ及び搬出を行う広域搬送に対応するとともに、多発する重篤救急患者の高度救命医療を行います。また、災害派遣医療チーム（DMAT：Disaster Medical Assistance Team）の派遣や受け入れを行い、地域の医療機関へ応急用資器材の貸出しも行います。

病院施設として、診療部門は耐震構造であること、また、放射線撮影室、手術室、人工透析室及び集中治療室等、救急診療に必要な診療棟や病棟が整備され、災害患者が多数発生した場合に対応可能な居室や簡易ベッド、備蓄倉庫、電気等の生活必需基盤の維持機能等が確保されていることが必要です。

病院敷地内または病院近接地にヘリコプターの離発着場が確保されており、災害時の重要な通信手段である広域災害・救急医療情報システムの端末が設置されていることも必要です。

DMATとは、医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職）の5名程度で構成された、大規模災害や多傷病者が発生した現場に駆け付け、急性期（発生からおおむね48時間以内）の治療にあたる「専門的な訓練を受けた医療チーム」のことです。

当院では、現在、日本DMAT1チーム（医師2名、看護師2名、業務調整員2名）、愛知DMAT1チーム（医師1名、看護師2名、業務調整員2名）を保有し、年度内には日本DMATをもう1チーム編成する予定です。

DMAT隊員は、平時においても技能維持研修や大規模災害訓練に参加しており、県営名古屋空港が近くにあることから、飛行機事故に備えた訓練にも定期的に参加しています。

阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震と大きな震災が発生し、南海トラフ巨大地震に対する警戒が強まってきています。

地震による被害想定がより詳細で現実的なものとなっており、これを受けて愛知県でも対策委員会や実働訓練が増えてきています。

当院においては、耐震強度と地理的条件を考えると、完全に崩壊する可能性は少ないものと思われます。



しかしながら、多くの病院が機能しなくなる可能性が高いため、災害拠点病院は、被災患者の受け入れる病院として大きく期待されています。

完全崩壊は免れたとしても、少なからぬ損傷、ライフラインの途絶、人員も含めた医療資源の制約、それに加え地域内外の被災者の受け入れにより、通常の医療業務にまで復帰するには時間を要するものと推定されます。

災害は起こらないに越したことはありません。しかし、最近のデータが示すように、そう遠くない将来に南海トラフ巨大地震が起こる確率は高いと考えられるため、いつかは起こるものと受け入れて対策を講じていくことが肝要です。

災害が起こった際には、地域住民が一丸となって助け合っていくことが大切であることは、今までの震災で十分経験されていることです。家族単位から地域規模に至るまで、日頃から避難訓練や備蓄等、震災への対策を十分にしておくことが大切です。

当院では、平時はもとより災害時においても、皆様に安心して頼っていただける病院をめざして日々努めています。

しかし、災害時には皆様の協力なくしては成り立ちません。そのためにも、皆様との信頼関係をさらに深めていきたいと思っています。これからもよろしく願いいたします。



災害派遣医療チーム (DMAT)

左から 太田有亮 鈴木大吾 鈴木浩之 近藤圭太 馬場建造 立澤宏真

万ーのために 「お薬手帳」を持ちましょう

日本DMAT隊員

薬剤師 鈴木大吾

日本は地震大国です。近年、東日本大震災、熊本地震と大きな震災が起こっています。災害時には社会全体が混乱し、患者さんが期待する医療を提供することができません。

しかし、糖尿病や狭心症などの慢性疾患がある患者さんは、普段飲んでいる薬が命綱であり必需品です。では、「もし災害によって薬を失ってしまったら」、「災害によって病院が閉鎖してしまったら」どうすればよいでしょうか。

その時は、薬局を訪れてください。本来、薬局では、処方せんがなくては調剤できませんが、災害のために処方せんを交付することが困難な場合、処方せんなしでの調剤が認められています。そのときに役立つのが「お薬手帳」です。普段飲んでいる薬が分からなければ薬剤師は調剤できません。また、あやふやなやりとりにより普段の薬と違った場合、症状をコントロールできないのは明白です。

自分の身は自分で守る。たった1冊の「お薬手帳」を携帯すれば、普段と同じお薬が薬剤師に調剤してもらえます。

嬉しい嬉しい1年生 入学おめでとうございます

春日井市民病院で産声をあげ、たまたま出会ったお友だち4人がこんなに大きくなりました。

市民病院の桜をバックに記念の1枚です。子どもたちの笑顔に、ご家族の皆様の願いが詰まっています。お母さんが眠い目をこすりながら授乳していた時間が昨日のことに思い出されますね。

スタッフ一同、健やかな成長を心からお祈りいたします。



「タリーズコーヒー」がオープン



TULLY'S COFFEE

営業時間 平日 7:30 ~ 20:00
土日・祝 9:00 ~ 18:00





市民公開講座のお知らせ

平成28年6月18日（土）骨粗しょう症をテーマに、当院の整形外科部長 泉田医師とリハビリテーション技術室 中崎理学療法士による市民公開講座を開催し、多くの皆さまにご参加いただきました。

次回は、平成28年9月10日（土）乳がんをテーマとして総合保健医療センターにて、当院外科医師による講演などを予定しています。

詳細は、病院ホームページや広報等でお知らせします。



病院新聞



発行 春日井市民病院 広報委員会

〒486-8510 春日井市鷹来町1丁目1番地1

■電話 0568-57-0057(代表)

■ホームページ <http://www.hospital.kasugai.aichi.jp/>

■Facebook <https://www.facebook.com/hospital.kasugai.aichi.jp>



ホームページ
QRコード